

第77回建交労夕張支部 定期大会開催される

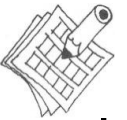
12日、末広建交労事務所で、建交労（建設交運一般労働組合）夕張支部第77回の定期大会が開催されました。

野呂義則執行委員長の挨拶があり、続いて来賓として、夕張労連事務局長の熊谷泰昌さんとくまが桂子夕張共産党市議が挨拶しました。続いて、厚谷市長・小林議会議長、労金夕張特別出張所



建交労の前身は戦後「全日自労」（全日本自由労働組合）として夕張の組合運動をけん引してきました。同労働組合は、戦後すぐからの夕張の労働組合の歴史の重みをずつしりと感じさせてくれました。組合員の高齢化が進む中、コロナ渦中で苦しむ労働者、国民のために政治の流れ

を変え、労働運動をさらに進めることが提起されました。議案は審議討論の上すべし、大会は終了しました。



くずさんの 夕張歴史散歩 (147)

明治維新 61 朝鮮植民地支配 ④

「創氏改名」の屈辱

1939年(昭和14)朝鮮民事令(日本の民法にあたる)の改正を施行し、1940年(昭和15)2月11日に「創氏改名」を実施します。なぜ、この日だったのか。当時、大だに喧伝された「紀元は2600年」の「紀元節」の当日だったのです。*1
生れてからずっと自分の体の一部となっている名前(姓名)を、突然替えさせられる理不尽さは、屈辱以外の何ものでもありません。

狙いはどこに

「創氏改名」は、朝鮮人の旧来の苗字と名前(姓名)を、ただ日本名に変えるだけではありません。そこには、家族制度そのものの同化を意味していました。
日本の家族制度は、明治の時代に家(イエ)制度として確立し、家長(戸主)を中心とする「イエ」が社会的基礎となつて天皇制国家を支えました。*2
朝鮮では、伝統的な家族制度として父系(男系)の血族集団を中心としていました。したがって「姓」は男系の血統を表します。女性は結婚しても「姓」は変わらないので、夫婦は別姓でした。
そこで日本の天皇への忠誠心を抱かせるためには、日本の家制度を導入しなければならぬ、そのために「名前のあり方」を替えることが必要だったのです。

*1 明治政府は「神武天皇が即位した」とされる日(太陽暦で「2月11日」)を国民の祝日「紀元節」としますが、なんの根拠はありません。神話上での話にすぎません。
*2 現在でも、世帯主が家族構成の中心となっていて、家制度の名残や家族同姓・夫婦別姓問題などが起きています。



紙智子「国会かけあがる記」
参議院議員
紙智子

「総選挙勝利を」

いつあってもおかしくない解散総選挙、全国遊説で久しぶりに埼玉県川越市の街頭演説会に参加しました。南川越駅は東武線とJRの乗り換えで人の流れが多いところ。新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら、後援会のみなさんが集まってくれました。比例代表候補で国対委員長代理の塩川鉄也衆議員、茨城県で水戸市議、茨城県議を40年間にわたる務めた大内久美子比例候補、小選挙区区候補者の田村つとむさんと訴えました。

塩川議員は、日本学術会議などの論戦とともに、消費税減税への世論の高まりが与野党を超えた動に変化していると紹介し、減税を実現させようと訴える、若い女性が大きく手を振りながら通り過ぎるなど、期待を感じました。

私は、農産物の種を米国大企業に委ねることにつながる種苗法改定案が衆院で短時間の質疑で採決されようとしていると告発。同時に、市民と野党の共闘で政治は変えられるとし、埼玉では大野元裕県知事を誕生させ、沖縄では、「オール沖縄」で米軍基地押しつけに反対する翁長雄志知事と玉城デニー知事を生み出し、岩手県でも野党が共闘して県民の立場の増進も知事を再選させました。今度は政権交代を、そのために、北関東比例で塩川鉄也さん、梅村さえこさん、大内久美子さんを押し上げようと訴えました。

宣伝には、国会と一緒に活動した元秘書さんも参加してくれ、久しぶりに再会し、選挙での勝利を誓い合いました。